教育に新聞を

学び より深く主体的に

教育現場での新聞活用の可能性を探る2021年度のＮＩＥ（教育に新聞を）公開セミナーが11、12月、県内の実践指定校のうち６校で開かれた。県内の教育界と新聞・通信９社でつくる県ＮＩＥ推進協議会（会長＝大園隆明・長嶺中学校長）が毎年実施しており17回目。地域の魅力を掘り下げた生徒オリジナルの新聞づくりや、東京五輪、米大統領選など社会的なテーマを題材にした授業など、新聞を「主体的・対話的で深い学び」に生かす多彩な取り組みを紹介する。

（伴哲司、西山美香）

県内実践６校 公開セミナー

新聞作り 表現力アップ

「五中新聞　磨五進」を題材に、記事を書いた思いや感想を話し合う五木中の生徒たち＝五木村

五木中（五木村）

五木村の五木中（村山茂校長）では、全校生徒21人で作り上げた「五中新聞　磨五進（まいしん）」を題材に意見を述べ合う「記事トーク」に取り組んだ。1～3年生を交えた6グループに分かれ、自分が書いた記事のポイントや取材の苦労、ほかの生徒が書いた記事で感じたことについて活発に意見を交わした。

「磨五進」はタブロイド判8ページ。生徒11人でつくる「ＮＩＥ隊」を中心に、総合的な学習の時間で学んだテーマに沿って、全員が分担して記事を書いた。1年生は、ふるさとに伝わる伝説や文化財、自然などをピックアップ。2年生は地元の森林組合や道の駅などでの職場体験、3年生は村内の小規模多機能ホームでの福祉体験をまとめた。熊日読者・新聞学習センターのスタッフも見出しの書き方やレイアウトの指導で協力した。

記事トークでは、ＮＩＥ隊が取材した保育園と小中高校の合同運動会や熊本聾（ろう）学校とのオンライン交流会、村に伝わる焼き畑の記事を紹介し、「伝えたいことをシンプルな言葉でまとめ、読み手の興味を引く言葉選びに努めた」などと発表した。

ＮＩＥ隊長で3年の蓑田涼太さんは「インタビューなど人に聞く機会が多く、『コミュニケーション力がついた』『文章を書くのが得意になった』という意見が多かった。培った力を生かしていきたい」と述べた。

授業後の意見交換では、ＮＩＥ担当の上渕純子教諭(39)が職員手作りの新聞閲覧台設置をはじめ、週2回のＮＩＥタイムでの記事トークやスクラップなど、昨年から継続してきたことを報告。「新聞を読んでいなかった生徒も少しずつ記事に興味を持ち、社会的な問題に目を向けるようになった。日常的に活字に触れ、読解力や表現力アップにつながった」と話した。

活動を振り返り、2年の数山（すやま）さくらさんは「ほかの学年と話すことが増え、学校行事もよりうまくいくようになった」。上渕教諭は「自分の言葉で伝えるスキルが身に付き、子どもたちはぐっと成長した。自信を持ってほしい」と語った。

（開催日は11月26日）

五木中の生徒全員で取材、編集した新聞「五中新聞　磨五進（まいしん）」

御船町の滝尾小（天川一幸校長）は5年生国語の授業「新聞を読もう」で、地方紙と全国紙の記事を比較。読者のニーズに合わせて内容を工夫していることなどを学んだ。

「地方紙（熊日）と全国紙の記事です。どっちがどれでしょう？」。有村紀子教諭(38)は、東京五輪で野球の優勝に貢献したプロ野球ヤクルトの村上宗隆選手（熊本市出身）の記事二つをホワイトボードに張り、児童たちに問い掛けた。

「ホームランを打った時の様子が詳しい方が全国紙だと思う」「熊本のことがたくさん書いてある方が地方紙だよ」。児童は記事や見出しを頼りに議論。同じ出来事でも記事の書き方に違いがあることを確かめた。熊日社員も授業に参加し、県民が知りたいことは何か考えながら記事を書いていることなどを話した。

同校では「読む力を育む」をテーマに、ＮＩＥコーナーを設け、新聞を読んで要約や考えたことを書く学習を通して新聞に親しんでいる。読み書きへの抵抗感も減り、本年度の全国学力・学習状況調査（学力テスト）の正答率も「書くこと」が7・8ポイント、「読むこと」が14・1ポイントそれぞれ県平均を上回った。今後も読解力、表現力、情報活用力を高めるために新聞をどう活用するか、研究を深めたいとしている。（開催日は11月5日）

東京五輪野球での村上宗隆選手の記事を見て、地方紙と全国紙の違いを話し合う滝尾小5年の児童＝御船町

滝尾小（御船町）　地方紙と全国紙を比較

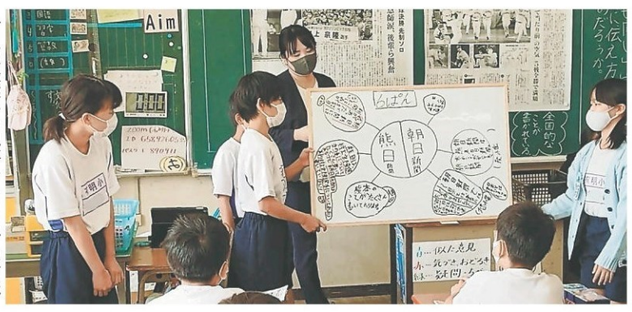
荒尾市の有明小（猿渡博実校長）はオンラインでセミナーを開催。あらかじめ録画・編集した5年生国語の授業「新聞を読もう」を見た後、同校のＮＩＥ活動について報告した。

授業では平野麻衣教諭(35)が5年1組の37人に、新聞記事の特徴を説明。見出し、リード、本文の順に重要な事柄を出す「逆三角形」になっているなどと話した。

その後、東京五輪で野球の優勝に貢献したプロ野球ヤクルトの村上宗隆選手（熊本市出身）の熊日と全国紙の記事を黒板に貼り、「同じ日の同じ内容の新聞記事で、なぜ伝え方が違うのか」と問い掛けた。

子どもたちは二つの記事を読み比べ、気付いたことをグループで発表。「熊日は、全国紙と比べて村上選手のことが多く書かれている」などと分析した。最後に平野教諭が「同じ出来事でも、地方紙と全国紙では書き方を変えていることが分かりましたね」とまとめた。

同校では国語以外の理科、算数などでも新聞を活用。児童が新聞を切り抜いて貼り、感じたことを書く「新聞ノート」活動を続けている。セミナーではＮＩＥを通じて活字に触れる機会が増え、図書館の貸出数が増加したことなどを報告した。（開催日は11月9日）


村上宗隆選手の記事をもとに、地方紙と全国紙の違いについて発表する有明小5年1組の児童＝荒尾市

有明小（荒尾市）　理科、算数にも活用

熊本市の三和中（加藤哲也校長）はオンラインでセミナーを開催。あらかじめ録画した授業を公開した。

授業は3年2組の総合「未来創造～新聞をもとにＳＤＧｓについて探究」。松尾浩太郎教諭(39)の指導で、生徒らは電子黒板を使い、新聞記事をもとにＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）について調べた事を発表。汚職や性的少数者、水不足などの課題を取り上げ、解決策をグループで話し合った。

「安全な水とトイレを世界に」というテーマの発表では、マダガスカルで1170万人が汚れた川の不衛生な水を使っていることなどを報告。水質汚染を防ぐための生ごみの堆肥化やプラスチックの使用減、節水のための日常生活の工夫などを提案した。

発表を終えて、生徒からは「新聞には読者目線の意見があり、内容も説得力がある。新聞を使って調べると新しい発見もある」などの感想が出た。

同校では、生徒が気になるニュースと感想を紹介する「1分間ニューススピーチ」などを全学級で実施。日本新聞協会主催の「いっしょに読もう！ 新聞コンクール」にも全校で取り組んだ結果、「世の中の出来事に対して自分なりの考えを持っている」とアンケートで回答した生徒が、1年間で58％から81％に増えるなどの成果が見られた。（開催日は11月25日）

新聞記事をもとに、ＳＤＧｓの課題について調べた活動の感想を話す三和中3年2組の生徒＝熊本市西区（ビデオ会議システム「ｚｏｏｍ」の画像から）

三和中（熊本市）　ＳＤＧｓテーマに学習発表

玉名市の玉名高校定時制（西澤頼孝校長）は3年生国語「気になる記事を伝え合おう」の授業を公開。生徒は関心を持った記事から感じた課題について先生や同級生らにインタビューし、自身の意見と合わせて発表した。

横山健聡教諭(38)の指導で、生徒の緒方博雅さん(19)が高齢者事故を減らすための対策について発表。緒方さんは東京・池袋の暴走死傷事故で元キャリア官僚の被告(90)に実刑判決が出た記事を読んで、テーマに選んだ。

緒方さんは高齢者の事故件数や要因などの統計を踏まえ、免許返納を増やすにはどうしたらいいか、先生や先輩にインタビュー。「高齢者が車を運転しなくてもいいよう、地域のお店を充実させては」などの意見が出たことを紹介し、「公共交通機関が充実すれば、免許を返納する人も増えると思う」などと発表した。

濱口大輝さん(18)は東京パラリンピックの記事を読んで「共生社会へ」と題して発表。障害者が十分に社会参加できる社会にするために「パラリンピックを見て障害者のことを知り、相手の立場になることが大切」と呼びかけた。

同校定時制は生徒数34人で、昼間仕事をしている生徒も多い。3年生は今回の発表をもとにオリジナルの新聞を作り、校内で発表することにしている。

（開催日は12月8日）

新聞記事をもとに、高齢者事故の問題について発表する緒方博雅さん＝玉名市

玉名高定時制（玉名市）　先生や同級生ら取材

米大統領選に関する新聞記事を分析し、発表する熊本高専八代キャンパスの学生＝八代市

熊本高専八代キャンパス（八代市）　米大統領選の報道分析

八代市の熊本高等専門学校八代キャンパス（荒木啓二郎校長）では、リベラルアーツ系「政治経済」で、1年生約80人が遠山隆淑教諭(47)の指導で、2020年の米大統領選挙などについて新聞各紙とネット情報を比較。グループごとに発表した。

米大統領選では、トランプ大統領の主張や、同氏を熱狂的に支持した陰謀論信奉者「Ｑアノン」に関する新聞各紙の報道を比較。

熊日や全国紙の記事は「トランプ氏の主張を事実として報じながらも、同氏を擁護するような内容はなかった」と分析。一方、インターネットでは「不確実な情報を信じた人が拡散し、それを信じた人によってさらに拡散されている」と分析した。

それらを踏まえ「ネットの情報は幅広いが、信頼性の低い内容もある。新聞記事は実際に起こったことを深く掘り下げている。気になった情報はすぐにネットで調べず、新聞などと見比べることが大切」とまとめた。

21年9月の自民党総裁選についても各紙の論調を比較した。

後日、熊日八代支社の木村彰宏支社長による講演もあり、川辺川ダム報道の取り組みなどを紹介。「記者は権力に迫る取材を積み重ね、読者の知る権利にどう応えるか日々考えている」などと話した。

（開催日は11月18日）

県内の新聞・通信各社でつくる県ＮＩＥ推進協議会は、2022年度の実践指定校を募集している。

【対象】小、中、高校（定時制、通信制を含む）と高等専門学校、短大、大学

【募集数】若干数（審査の上採否を決定する）

【指定期間】原則２年間（１年ごとに更新）

【新聞提供】熊日、朝日、毎日、読売、西日本、日本経済、産経の計７紙を各４カ月分無償で提供（規模によって各２カ月の場合あり）

【その他】記者による出前授業や新聞づくりなどを通して、児童・生徒の読解力、メディアリテラシーの向上を支援する。各校での教職員向けのＮＩＥ研修なども開く。

※年度末に実践リポートを提出し、原則として２年目に実践成果発表のための公開授業を開催してもらう。

【応募締め切り】2022年１月28日

【申し込み・問い合わせ先】県ＮＩＥ推進協議会事務局（熊日読者・新聞学習センター内）☎096（361）3073。

ＮＩＥ実践しよう

22年度の指定校募集